

第2回地域発達支援協議会 会議録

- 1 日 時 令和4年10月31日(月) 15:00~17:00
- 2 場 所 新居浜市こども発達支援センター
- 3 出席者 委員 高森 快海 委員 川井 章代
委員 明智 美香 委員 佐々木 裕香
委員 岡部 弘典 委員 佐崎 加世子
委員 石川 真悟 委員 畑野 一恵
委員 大西 誠 委員 後藤 一美
委員 山内 直枝 委員 坂上 玲子
委員 真鍋 真理子 委員 野沢 佐絵美
アドバイザー 吉松 靖文
アドバイザー 渡部 徹
- 4 欠席者 委員 竹本 幸司 大寺 喬哉 合田 史宣 三木 由紀子
濱田 紀明 本多 知里
- 5 事務局 藤田 恵女 越智 誠司 丸山 律子 西原 勝則 西原 紀子
田中 康一郎
- 6 傍聴者 0名
- 7 議 題 (1) 教育委員長あいさつ
(2) 協議題
・幼児期からのネット依存について
(3) その他
- 8 議 事 開会 午後15時00分

事務局	<p>皆さんこんにちは、本日はご多用の中、令和4年度第2回地域発達支援協議会に御出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>まず初めに、新居浜市教育委員会教育長が御挨拶を申し上げます。</p>
教育長	<p>——教育長あいさつ——</p>
事務局	<p>ありがとうございました。なお、本日の欠席は、竹本委員、大寺委員、合田委員、三木委員、濱田委員、本多委員になります。委員定数20名のうち14人の出席をいただいておりますので、新居浜市地域発達支援協議会設置要綱第6条の3で示されています過半数を超えており、本協議会の成立要件は満たしていることを報告いたします。</p> <p>それでは、第2回新居浜市地域発達支援協議会を始めたいと思います。会の進行を委員長に委ねたいと思います。校長先生よろしく申し上げます。</p>
委員長	<p>それでは、お手元の議事に従いまして会を進めて参ります。</p> <p>本日の議題「幼少期からのネット依存について」、事務局お願いします。</p>
事務局	<p>今年2月14日に開催を予定していた第3回の本会議は、コロナの影響で中止となりましたが、その時に議題に上がっていた「幼少期からのネット依存について」を今回の議題とさせていただきます。ネット依存が幼少期から生涯に掛けて及ぼす影響について、気になる事例等（たとえば「睡眠障害」）について、皆さまからの御意見等を元に話し合いたいと考えています。</p> <p>その前に、まず「もしもゲーム依存症になったら」という動画を皆さんと一緒に視聴したいと思います。これは神奈川県が作成している動画の縮小版です。約11分間あります。それではどうぞ。</p> <p>——視聴——</p> <p>動画：「もしもゲーム依存症になったら」 (URL : https://www.youtube.com/watch?v=aPhrSphLI0o)</p>
事務局 委員長	<p>ありがとうございました。それでは、委員長にお返しします。</p> <p>今、動画を見ていただきましたが、「障がいや発達課題のある子どもへの生涯にわたる一貫した支援」を考えるうえで、ゲーム依存やそれに伴う睡眠障害について、それぞれのお立場から、普段から気になっていたこと、困ったこと、工夫されていることなど、どんなことでも構いませんからご発言をお願いいた</p>

委員	<p>します。</p> <p>小学校です。</p> <p>——事例および体験談——</p> <p>(発達に課題のある子どものうち、ゲームへの依存度が高いケースについて。不登校との関連や、環境および人間関係との関連について。)</p> <p>医療等、様々な関係機関に関わってもらっているのですが、動画にあったように、ゲームを取り上げてしまうことは治療にならないと助言をいただいております。こちらの方で、周りの人との関わりを増やしている状態でのゲーム依存であれば、糸口も見つかると思いますが、今の状態では糸口も見つけにくい状態です。非常に悩んでおります。糸口のヒント等、お話をお聞きして、学ぶことができると考えております。</p> <p>——事例および体験談——</p> <p>(1から2歳児の幼児もスマホに触れる機会が多く、文化となっていることへの懸念について)</p>
委員長	<p>まずは、現状を話していただいて、その後、アドバイザーの先生に御意見をいただこうと思います。</p> <p>中学校です。ゲームについては、男の子の方が、女の子よりも多いように思います。以前は、高校に入るからスマホを買ってもらおうという感じでしたが、今は違うように思います。もっと小さい時からスマホを持っている状態となっております。スマホありきで話をしていく必要があると感じております。困っていることは、ゲームの時間についてです。私自身もテレビゲームをしていたので、気持ちはわかるのですが、私たちの時と比べると時間が大きく違うと思います。学校に通っている子どもでも、休日には8時間は当たり前の状態で、平日には3時間の状態です。テレビを見ないでスマホゲームをしている状態になっています。保護者自身が、ゲームの達人なので、保護者に伝えたところで入りにくい部分があります。男の子の場合もありますが、特に、女の子の場合は、TikTokが多いです。しかし、大人の方がよく理解していません。教師の方がわからず、指導しにくい状態にあります。Instagramの方は、まだ理解できるといったレベルにあります。中学生で問題となる例として、「私に関心のある人は質問箱に入れてください」と言って、その後、質問箱に入ってもめると</p>

委員	<p>ということがあります。わかりきった失敗なのですが、何人もの生徒が失敗を繰り返しており、中学校の方で指導しても入りにくい部分があります。小学校5年、6年では当たり前だと思いますが、対応に悩んでおります。</p> <p>東予子ども・女性支援センターです。関わっているケースでは、1歳半の小さい頃から、言葉がでない時期からYouTubeを見てスキップをしている子がいます。母親は、「携帯を渡していると、この子は大人しいんですよ」と話す方もいます。中学生では、SNSの依存で、生活リズムが崩れて、昼夜逆転して、朝起きられずに不登校になったケースもあります。今のリズムを直すことに苦労をしております。コロナ禍の中で、ネットでのつながりが、今まで以上に強いとも感じております。TikTokやInstagram等、簡単につながることでできる時代なので、他のケースにおいても、会ったことのない人と出会って、入籍して結婚しているというケースもあります。危険もたくさんあるので、スマホを買い与える保護者の理解や使い方、子どもとの関わり方とかが大事だと実感しております。</p>
委員	<p>児童発達支援事業所です。2歳から6歳までの子ども達が通って来ていただいているのですが、YouTube等、動画を見ていることが多い状態です。来ているお子さんは、小さいうちから遊びが広がらなかつたり、言葉が広がらなかつたりする子がいます。また、楽しいことをした後切り替えることが難しく、大泣きしてしまう子や大暴れをしてしまう子がいます。そのため、その時の切り替えの方法として、「お家でYouTubeを見よう」と言って、帰宅を促す場合もあります。過去には、生活のすべてがYouTubeになっている子どもさんもいたのですが、今のところは、保護者も危険性も理解しながら見せており、YouTubeの時間は減ってきているという状態です。今、通って来ているお子さんで、動画に依存して生活が立ち行かず、寝る時間が足りなくなっているというケースはいません。親のところでコントロールできている状態ではないかと思えます。</p>
委員	<p>障がい者自立支援協議会です。2歳から18歳までのお子さんの相談支援事業を行っています。初めて家庭訪問をさせていただき、2歳ぐらいの発達障がいの疑いのあるお子さんとか、支援が必要なタイプのお子さんにお会いする際に、多くの場合、YouTubeを見ています。発達特性から、同じ好きな場面を繰り返し何度も、その場面だけを見るという使い方をしてるケースが多くあります。物語のあるものを見るというよりも、部分的に本人がとても好きなところだけを見ている人が多くいます。保護者もTikTokやInstagram等、されて</p>

委員	<p>いる世代であり、小さいお子さんのことを、その TikTok にたくさんあげて、一緒に楽しんでいるということがあります。しかし、いろんな人がみており、危険だと思います。大丈夫だろうか心配するのですが、積極的に使われている保護者は多くいます。学年が上がってくると、昼夜逆転して不登校にもなり、だんだん生活リズムも崩れていきます。最近、両親ともに働かれています方が多いため、生活リズムの崩れた状態の子に介入することが難しくなっております。その場合、子どもは、昼ぐらいに起きてご飯も食べたり食べなかったりします。放課後等デイサービスにつながっている方は、通ってくることはできますが、つながっていない場合はそのままの状態になっております。支援者としては、とても難しい問題だと感じています。また、保護者のタイプとして、子どもが依存の病気になる手前で気付く保護者や、どんどん依存が進行していることにも気付かない保護者もいます。後者の場合、病気だと認識していない場合も多いと思われれます。特に、お子さんの年齢が低い場合は、その病識への保護者の意識は低いと思われれます。支援者として、すごく心配になります。</p> <p>地域福祉課です。児童と障がい者のサービスの決定や相談を行っております。最近では、YouTube やゲームの時間が多すぎて、お風呂とか入れないというケースがあります。保護者も特性を持たれている方で、母親も子どもが言い出したことを止めることができず、身体介助ということで、ヘルパーに、お風呂を促す関わりを求めたり、日常生活の区切りのつけ方の支援を求めたりする場合があります。お子さんが低年齢のケースでありました。中学校・高校の場合、不登校に当たるケースになるのですが、保護者がシングルや共働きで、お子さんが家にいることに困っていない状態のケースも多くあります。勉強等、学校でいろいろ学ぶというよりも、家にいて悪いこともしないため、家に居らせているというケースがあります。保護者自身が、子どもを学校に行かせないといけないと促す方が、しんどくなると思っている場合もあります。子どもと話をして、頑張らせて学校に行かせることを、保護者が望んでいない場合もあると思います。ママ友の中には、1歳とかの子で歯磨きの仕方とかの動画を見せながらするとスムーズになると話をすることがあります。小さい時から、YouTube 等を使って歯磨きをするものだと子どもに学習させているのかもしれないと感じます。</p> <p style="text-align: center;">——事例および体験談——</p> <p>(ネット通信を使ったゲーム使用の課題について。夜間における子どものゲーム使用について。)</p>
----	---

<p>委員</p>	<p>自制心が働かない子どもにとって、リアルの友だちとゲームの中での友だちが同じな場合、上手く区切りがつけにくいのではないかと思います。ある小学生が、「〇〇ちゃんと写真撮るのは嫌なんよね、すぐストーリーにあげるけん」と言っていたのですが、それを私は何を言っているのかわかりませんでした。自分も勉強していかないといけないと感じました。</p> <p>子育て支援課です。特定妊婦や要保護児童対策地域協議会にあがっているお子さん等の支援を行っております。子育て支援課は、手続きの多い課であり、保護者がお子さんを連れて来課される方が多くいます。手続きについても、出産や手当等でたくさん書類を書いていただくことがあります。お子さん連れの保護者は、お子さんを長い時間待たせることになるため、携帯やスマホを持たせて、動画を見せている方が多くいます。待つ時間に耐え切れずに泣いてしまうお子さんも多いため、ツールとして使ってしまう保護者は多いです。玩具を置いているのですが、子どもは興味を示さず、動画の方に興味を持つ場合が多く、保護者もツールとして活用している方が多いと感じています。</p> <p>——事例および体験談—— (過度なスマホ使用による昼夜逆転の問題や不登校の問題について。)</p> <p>どこに支援をしてよいかわかりにくく、課題が多重化しているケースにおいて、共通している問題は、スマホの問題だと思います。スマホのことが問題にならないケースは無いように感じています。経済的にしんどい場合にスマホを与えているケースや、保護者自身がしんどくて関われないためにスマホを与えているケース、いろいろな要因があって持たせているとは思いますが。どう対応したらいいのかを聞かれても、答えようがないといったところが実情だと思います。先ほどの動画のように、上手くいけば良いのですが、支援につながるまでに、問題が複合化・複雑化しているために、支援が難しいと感じております。</p>
<p>委員</p>	<p>保健センターです。お子さんの健診や子育て支援を行っております。すべてのお子さんが乳児相談を受ける初めての機会が、5か月の乳児相談であり、生後5か月の時に保健センターに来ていただいております。その時に、待ち時間を活用し、保護者に向けての掲示物をしております。その内容が、YouTube等のメディアとの付き合い方についてのものとなっております。内容としては、見せてはダメではなく、見せるのであれば、見せっぱなしの状態にせず、遊びを広げるような使い方を促す内容となっております。家庭訪問もするのですが、1歳代の子どもがいる家庭でも、YouTube等の動画が付きっぱなしの家も多く</p>

委員	<p>あります。保健センターでは、1歳半健診や3歳半健診を実施しているのですが、その待ち時間の様子を見ると、保護者がお子さんにスマホを見せている方はいません。しかし、保護者の方が、待ち時間にずっとスマホを見ているという様子は多く見られます。保護者自身のメディア機器の接触時間のコントロールができていないのではないかと感じます。保護者に対して、乳幼児期のスマートデバイスの適切な使用について啓発するとともに、親になる前の世代、中学生や高校生の際に、メディア接触の時間をコントロールできるようにしておくことが、いずれお子さんを産んで保護者となった際に、自分の家庭の中でも教育できるようになることが大切ではないと考えております。</p> <p>公私立幼稚園協会です。少し前は、運動場等では、高校生のお兄さんがゲームをしている様子が見られました。今は時代が変わって、運動場に、中学生や高校生は見なくなりました。また、小学校の子ども達が、「遊ぶから〇〇集合ね」と待ち合わせをする場合は、サーバーの中で待ち合わせをするという、現実社会ではないところで待ち合わせをする状態です。この状態が日常化しており、怖いと感じましたが、仕方のないことなのだと思います。保護者の方も同じように、仕事帰ってからもスマホを見ている父親が多く、ゲームをしている場合が多い状態です。疲れた時、ご飯を食べている時、ちょっとした時に触っているものがスマホになっております。母親も、父親や子どもがいない時に、スマホを見ているという状態です。このスマホの部分の指導等すると、争うこととなりますので、あまり言うことができない状況です。</p> <p>——事例および体験談——</p> <p>(ネットゲームにはまりやすい要因とその課題について。リアル世界での活動による行動変容について。)</p> <p>中高生の場合、恋愛をしても、現実場面では中々告白することは難しく、顔が見えにくいネットとかに相談する場合も多いと思います。相談しやすいために引き込まれやすいのではないかと思います。これは怖いことだと思います。課金については、「お金を使ってすることは悪だ」というくらいの風潮が無ければ、トラブルを防ぐことは難しいと思います。ネットゲーム等は、心がのめり込んでしまうものだと思います。</p> <p>——事例および体験談——</p> <p>(ネットゲームから抜け出すことの難しさ等について。)</p>
----	--

委員	<p>新居浜市内県立学校協議会です。以前関わった生徒さんの実例と照らし合わせて、動画を見せていただきました。ゲーム依存と気が付いていれば、ゲームの使い方を聞き取り、対応することができたのではないかと思います。</p> <p>——事例および体験談——</p> <p>(ゲームによる昼夜逆転をした生徒等について。)</p> <p>男子の場合は、内向的で友人付き合いが苦手な場合が多く、女子の場合は、社会性の未発達というよりも、SNS で社会性が発揮されているケースが多いと思われます。これは、幼い時から、使っているので、リテラシー、使っている感覚が私たちとは異なります。特に、危険性に関する意識が異なっています。その延長で、高校生になりますので、やってはいけないこともそのままアップしてしまっていること等も見られ、生徒指導上の問題に発展することもありました。SNS 上で知り合った人のところに、黙って行ってしまっているという問題もありました。Instagram 等のダイレクトメールでやり取りをすることで、交流上のトラブルにつながることもありました。相手を好きになってトラブルになることありました。男女の違いでいうと、男の子でのめり込むタイプは、社会性が乏しい、未発達でゲームの方で承認を求める形が多いと思ひます。女の子の場合は、SNS の方で活発なやり取りを行ってトラブルになるという形が多いと思ひます。解決策は思ひつかないのですが、なるべくリテラシー教育を授業で行っており、メディアとの付き合い方等を含めて教えています。しかし、教えたからといって、自分の生活の中に落とし込める子ばかりではないと思ひます。リアルな生活を充実してもらいたいのですが、スマホについては、高校生は切り離せないという現状があると思ひます。</p>
委員	<p>障がい者就業・生活支援センターです。障がい者雇用、企業で勤めたいという方の支援をしております。年齢は、中学生から、70代までの方を見ています。ゲーム依存というところであれば、職場のストレスだったり、家庭内のストレスだったり、課金をして多額の借金をして、そこに支援していくところをしています。私たちでは対応できない部分もあるので、弁護士等の専門家に相談していく場合もあります。SNS 等に関しては、会ったことの無い人と、出会い系サイトやマッチングアプリを使って会って結婚したということで、遠方の方と結婚しますと語って相談してくる方もいます。ネット社会というのは、良い部分もあるのですが、見えてこない部分もあると思ひます。ネットの中では、現実味が無いという部分が問題であり、就労するために必要な社会性や生活力を現実の中で学んでいくことが大切ではないかと思ひます。私自身、中学校の</p>

<p>委員</p>	<p>2年の子どもが居るのですが、小さい頃からの教育が、子どもだけでなく保護者も学ぶことで、子どもに伝えられる部分も多いのではないかと思います。自分のこととして、捉えていく必要があるのだと思いました。病気ということであれば、医療機関との連携はとても大事だと感じました。</p> <p>新居浜肢体不自由児者父母の会です。肢体不自由があり、加えて知的障がいのある子を持つ保護者の会なので、子どもが引きこもりたくなくても、ひきこもっている状態であり、みんなと外に出て何をするのが難しい状態で、余暇を見つけて何かを行うのが難しい場合が多くあります。余暇の一つとして、コミュニケーションの一つとして、ゲームやネット等を使っていることは多くあります。知的なところが軽いお子さんでは、お話に出ているケースもあると思いますが、有効なツールとして使用しているのであればよいということですが、親としては、楽しく過ごして欲しいという思いが優先順位として上がってくるために、使用を許さざるを得ない部分があります。他のお子さんは、自分で電源を入れられるのですが、親が入れるために主導権が握れるという部分もあると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>にいはまローズです。にいはまローズのお子さんは、ゲームや趣味とか、知りたいことについては、ネットで調べるという場合が多いと思います。課金やサブスク等の問題が起こりますと、割と親の早い段階での介入が入ることが多いため、大きな問題に行く前に踏みとどめることができることが多いのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>特別支援学校です。高等部の生徒で、ネットゲームですごく活躍している子がいます。ただ、オンラインゲームを夜中に行って昼夜逆転し、朝起きることができずに学校を休む旨を伝え、ほとんど学校に通っていません。家やネット上では居場所があるのですが、現実世界ではつながりがなく、リアル感をどのように作っていくことができるのか、卒業後どのような形で社会とのつながりが持てるのかという部分が心配しているところで課題となっております。子ども達は、お休みの時間には、YouTube等を見て過ごしている状態です。自分の好きな動画を見て、時間が来たら授業に戻るという形になっております。好きなものが決まっており、見たいという気持ちが強いことが多く、休みになった時は端末をみて過ごしている子どもは多いです。YouTubeの中にも授業に有効なものも多くあり、リズム学習等で使用させていただいております。端末を使った学習でも使っておりますが、帰宅後のネット等の使用については、十分に把握できていない状態です。かなりの時間使用して、ネット依存になっている</p>

	<p>子もいるのではないかと思います。中学部の子どものことですが、ゲームについて学年に関係なく校内で一緒に行っており、1人の子が攻撃を受けることがありました。その後、生徒課の指導を受けたケースがありました。学校の方で、保護者を対象にネットの使用についてのアンケートを取り、家族と本人を含めて考えてもらうとともに、ゲームやSNS、アプリ等でどのように使ってどれくらいの時間使っているのかということ进行调查しました。状態を知ってもらったうえで、家族でルールを決めようということを進めてまいりました。学校の先生が、使用に関しての振り返りの表を作って、その表を家に持ち帰って親とチェックをして確認をしてもらいました。学校がアンケート等を作って一緒に取り組んでみようということで、今実施しております。以前は4時間ほどしていた状態が、今は2時間の状態で、ゲームの時間を減らすことができたという事例も聞いております。家族と一緒に取り組むということが、上手いけば、本人のコントロールしようとする意識も高まるのではないかと思います。今のは、上手くできている部分ではあるのですが、全員が全員できるわけではありませんが、取り組みの一部分ということで御報告させていただきます。</p>
<p>委員長</p>	<p>皆様のお話を聞いて、とても参考になりました。聞いたことのない言葉がたくさんでできました。それぞれの立場のところで、聞きたいことがありましたら、御質問ください。</p>
	<p>好きなYouTubeの好きな部分を繰り返し見るという話がありましたが、私も良く動画を見るのですが、繰り返し見るというのはどういったことでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>ビデオとか、DVDも同じだと思いますが、特定の部分を見ます。その子によって違いますが。</p>
<p>委員長</p>	<p>おもしろ動画とは違うのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>違います。もっと感覚的なところで、こだわりがある感じです。通常の場合、子どもがミニカーを好きだった場合、ミニカーを走らせている動画を楽しいと感じます。ミニカーを箱から出している部分ばかり見ているとか、商品の紹介ばかり見ているとかの繰り返しです。最近は、いろいろなことができる状態になっております。家の構造上もリビングダイニングのようになっており、食事をする場所、遊ぶ場所が全てのものが全部見えている状態で、お子さんにとって、すごく好きなものが画面に映っている状態なので、発達に課題のあるお子</p>

	<p>さんは、活動の切り替えが難しい状態です。その度に、母親とバトルになって大混乱して、母親が根負けして、ずっとつけている状態になる場合があります。また、自分が見たくない場面が出てくると、物をぶつけて画面が壊れてしまうこと等もよくお聞きします。</p>
アドバイザー	<p>1歳半から2歳半の小さい子が、同じ絵本を何度も読んでくれとってくる時期があります。自分が覚えているストーリーが出てくると面白いのです。楽しみ方がその時期から次の段階に、子ども一人では移行できないので、誰と一緒に育てていくのかを考えて育てていく必要があります。</p>
委員長	<p>よくわかる例です。課金の話が出たのですが、アプリ内課金という表記は良くみるのですが、意味がわからない状態です。どういった仕組みなのでしょう。スマホの料金に上乗せされるのでしょうか。</p>
委員	<p>コンビニ等に行けば、いろんなカードがあります。DMMとウェブマネー、ビットキャッシュ等がありますが、今の子ども達の中でお年玉に欲しいものをあげると、課金のカードという子もいます。そういったものを使って課金する場合と、電話料金の方から引き落とされる場合があります。</p>
委員長	<p>課金されるとどうなるのですか。</p>
委員	<p>見た目が変わる等の個性が出るという部分と、強くなるという部分があります。フォートナイトが流行った時は、課金の量が強さに比例します。R-12指定になっていたのですが、小学生がたくさんしていたという現状がありました。お金を入れると、それだけ優位な状況を作れるというものです。これによって勝敗が決まるということになります。</p>
委員長	<p>それは高いのでしょうか。安いのでしょうか。</p>
委員	<p>安いから怖いのだと思います。1つに対して100円、200円といった感じですが、1回使い始めると、ブレーキをかけられない状態になります。何度も繰り返していく、当たり前前の状態になります。それが前提となります。初めは無課金と書いていたものでも、半年後、1年後は課金というものが無ければ運営できないので、そういった時にのめり込んでいる子にとっては、カモになりやすいのだと思います。小遣いをこっそりとカードに変えて使い、欲しいものを買うという状態になるのだと思います。あるテストで、100万円の借金が</p>

	<p>ある状態で、50万円を渡すと、返済にまわすという選択肢と、二分の一の確率で100万円になるというギャンブルの選択肢があった場合、大概の人はギャンブルをするという話があります。人の心は失敗の状況では、ギャンブル傾向が強いということが言えるのだと思います。ゼロより下の状態に自分を落とさないことが大切であり、自分で稼いで、ここまでは使わないという境界線をはっきりさせておくことで、ある程度、防げるのではないかと思います。</p> <p>——事例および体験談—— (課金等の仕組みやその危険性について。)</p>
委員長	<p>私も課金と言えば、ギガ数を増やすことぐらいしか知りませんでしたので、課金が多すぎたのでスマホを取り上げますと言っていた保護者がいたのですが、理解しにくい部分がありました。課金については、親の承諾等無くても、いくらでもできてしまうということなのですね。</p> <p>サブスクということがわかりません。教えてください。</p>
委員	<p>毎回頼むのではなく、定期購入で引き落とされていくという仕組みで、音楽等、様々な種類があります。</p>
委員長	<p>勉強しておきます。</p>
委員	<p>皆さんも知らないうちに行っているかもしれません。980円で、好きな音楽を聴ける等もサブスクです。映画とかも、ビデオオンデマンドとかでも、続きが見えますよとかも、お金を使って観ることができる仕組みがあります。学割や家族割で安くなっていたり、アカウントがあれば、場所が離れていても家族で共有することができたりします。</p>
アドバイザー	<p>サブスクの話がでましたが、世の中にはたくさんあって、使い放題というのがそれにあたります。皆さんも、携帯を持っていれば、その契約自体がサブスクになっています。定額にすることで、コストが安くなっているように見えるのだけど、トータルで見ると高額な金額になってしまうというものです。今どきの当たり前のビジネスモデルになっています。1つ1つが安いために、たくさんサブスク契約をしてしまい、月々で見ると結構高いということもあります。今、政府もあげて投資を促しています。似たようなものだと思います。そこに働く心理メカニズムは同じだと思います。株取引で失敗すると、取り返したくなる。株取引で失敗するパターンとして、レバレッジというものがあり、</p>

証拠金の10倍とかを借金して投資できて、もうかった時には、もうけから借金を返済できるのですが、損した場合は、手持ち金の10倍の損が発生してしまいます。子どもだけの話ではないのです。生活の中のさまざまなところに入り込んでいます。よく考えると、昔からある問題です。ただ、時代とともに、依存する対象が変わってきています。今日の話でもあったのですが、それ自体が古いのではないかと思います。リアルな生活の充実というところで、「リアルな生活はなんですか」という部分で、リアルな生活自体が変わってきていると思います。肢体不自由の子どもの話もありましたが、彼らの多くの中には、ヴァーチャル世界があるから充実しており、ヴァーチャル世界がリアルな世界を充実させるという部分が存在しています。その人にとっての意味や必要性の部分が重要なのだと思います。ここで問題なことは、周りがどうであるかというよりも、本人の問題であるということだと思います。本日見せていただいた動画についても考えてみても、依存の状態の人の中には、やりたくて依存している人もいれば、やめたいのだけれどもやめられない人もいます。しかし、人間はやめられないのが当たり前なのです。私たちにとっては、依存の世界で困ってしまっていると同時に、そこに安心を感じ、自分の存在価値を感じることができている。そこから、抜けるということは、人間やめるような喪失感や存在価値の喪失があるあると思います。これは、ネット依存に限らず、やめさせるという視点ではなく、その人にとっても周りの人にとっても意味のある世界、充実した世界の方をどうするかという視点だと思います。大切な人がいるかどうか重要です。大切な人の存在というものが、頭や脳にしっかりとしみ込んでいる、心と脳にしみ込んでいる状態であるかどうか、愛着の部分になってくるのだと思います。早期からの子育て支援の中で、YouTubeを見ることも楽しいのだけれども、お父さんやお母さんとやり取りをしたり、大切な人との楽しく豊かな時間があったりすることが大切です。定型発達のお子さんの中でも、2歳の頃から、人の役に立ちたいという思いがでできます。1歳は自分がしてもらったことを、大切な人にしてあげたくなる時期です。2歳になると、それまでにしてもらった体験の蓄積により、大人がしていることを自分もやってみたいと思い始めます。大切な人が一緒に喜んでくれたり、悲しんでくれたりする経験の蓄積が、人としての発達で最も重要な部分だと思います。少年非行の世界で昔から言われていることですが、「大切な人の顔が浮かぶか」という部分です。幼児期に、その刷り込みに失敗することで終わりというわけではないのですが、大人になった後でも、大切な人が自分の中に浮かんでくるかということが大切になってきます。今日の動画の中にもありましたが、大切に一番わかってほしい人が、その愛情故に、逆に自分の依存の世界を理解してくれず、否定したり、やめさせたりします。ただし、やめさせようと

する人に悪意はありません。その人のことを心から思っている、心のすれ違いの中で、起きてしまっています。その結果、大切な人のところではなく、別の場所を求めざるをえない、別の場所や活動の方に行ってしまうのではないかと思います。子育て支援の分野でいうと、愛着形成の部分から、大切な人と豊かな時間を過ごすために、多少、YouTubeを見たりすることは問題ないのではないかと思います。その一方で、依存症のレベルになると、脳が学習してしまって、本人の意思に関係なく支配されている状態だと思います。その状態が、本人がやめたくてもやめられない状態だと思います。重要なのは、本人自身が自覚することが大切だと思います。依存症かどうかに関係なく、お酒を飲む人の場合、今日は飲むことをやめておこうという日はありませんか。でも、仕事が終われば飲んでしまいます。人間は元々、依存しやすいのだと思います。それをやめることは難しいと思います。特に、物質による報酬効果が高いものは、やめにくくなります。そのあたりが、ニコチンやアルコールの依存だったりしますし、覚せい剤の方は、もっと依存度が高いようです。リスクを下げるといふ教育も必要ですが、違法な物質とゲーム・ネットの依存の違いはどこにあるのでしょうか。私たちの生活インフラになっているところが違います。なくてはならない、なくては成り立たないものになっていますので、上手に使いこなす時に、その事を詳しくない人が重要な役割を果たすかもしれないと思っています。人は、人の役に立つときに、すごく頑張れます。わからないと言って聞いてくれる人、教えてくれるかなと聞いてくれる人が大切になります。依存症の在りがちなケースとして、周りの人の方が、人間関係の中で高い位置にいることが多くあります。周囲の人が上位にあり、依存症の人が下位にあるという上下関係が固定化してしまっています。本人の自己評価も低く、大事な人から「やめろ」と言われている、自分もやめないといけないと思っているけど繰り返ししてしまう、自分はダメな人間だと思ってしまう。ダメな人間だと思ふと、人は、ハッピーにしないといけないため、更に依存します。依存するものは、自分をハッピーにしてくれるわけです。依存の問題を考える時に、本人と一緒に考えるということが重要だと思います。そういった点では、今度の生徒指導提要改訂とも関連していると考えています。児童の権利の部分です。子ども自身に、意見する権利、意見表明権があります。ネット依存も含めて、私たちが子どもに何をさせたいかではなく、子ども達自身と共に考えると、大人が子どもから教えてもらおうとかが必要だと思います。特に、ネットの使い方とかについては、子どもの方が上です。素人が説教してもダメだと思います。子どもに聞くと、はまり過ぎている子も、わかっている場合が多くあります。「わかっているならば何とかしろ」という言い方ではダメだと思います。「わかるよ、夜になるとお酒を飲みたくなることがある。似ているよね。」と共感

してくれる人がいることが、安心感につながると思います。ゲーム依存等では、達成感も大きく関わってきています。ゲーム依存の場合は、達成感と貢献感があると思います。人間は、貢献感を感じてしまうと、頑張れてしまいます。ネットやゲームとかは、それをビジネスモデルにして、金もうけができる形にしているわけですから、私たちは、会社よりも、上手に顧客を惹きつけるような対応をする必要があります。リアルな生活空間で満たされることは大切です。同紙にネット上でも、リア充として充実させることはできると思っています。障がいのある人が、ヴァーチャルの世界があることで、リアルの世界で活躍することができるという部分もありますので、ネットとリアルは切り離せないと思います。ケースによっては、ネットで活躍することで、リアルで活躍したくなるという部分もあると思います。ネットとゲームに限らず、私たちは依存することで、安心感と貢献感を持てるという存在であるということがベースにあって、日常生活に支障が出てきた状態が依存症であるということだと思います。依存症にならないけど、良い依存生活を行うことが、動画に出ていた「いろんなものに依存」ということだと思います。今日の動画のポイントとしては、失敗を繰り返しながら、回復していくということで、見捨てられない安心感が必要だと思います。「頑張ったのに、やはりできなかつたのか」という見捨てられる不安ではなく、失敗してもわかってくれる、認めてくれる人がいるという安心感が大切です。ネット依存やゲーム依存は、子どもだけの問題ではなく。大人の問題でもあると思います。大人も、周りからコントロールできていないことを指摘されても直すことができません。依存してしまうメカニズムは、子どもも大人も一緒だと思います。お互いに良い依存をしていき、依存症にならない生活を一緒に考えていくことが大切なのだと思います。

アドバイザー

「ドーパミン中毒」という本があります。その中の記載には、『薬物、食べ物、ニュース、ギャンブル、買い物、電子テキスト、性的電子テキスト、Facebook、Instagram、YouTube 等、私たちにとって強い報酬刺激となるものの、数や種類、効能の増え方は愕然とすることだ。スマホはインターネットにつながり、私たちに24時間使用を求める。休みなしで、私たちにドーパミンを運んでくる「現代の皮下注射」である。消費することが、私たちの生きる動機のすべてとなってしまうこの世界で、この衝動的に摂取してしまうことをやめることができるのだろうか。実際の方法を提示できればと思います』という書き出しで始まる本があります。医療レベルになると、バインダーのように枠にはめて対応しようという形になります。入院をして、物理的・空間的に距離を取って枠をはめることで回復を計る形が医療です。その医療に行くまでの対応について、今日は話し合っているのだと思っています。現在の相談の多くは、発達相談とい

う部分がどこかにいった状態で、ゲームやネット依存の相談を受けることが多くあります。不登校に絡んで、スマホやYouTube等の問題が多いと思います。3つの対応があると思います。1つ目は、文化の問題があると思います。その例として、昔、スケボーがダメであるという時代がありました。今では、オリンピックで金メダルをもらう時代になっています。文化が変わってきています。いずれは、スマホと言っていた時代が懐かしいと思う時代が20年後に来るように思います。20年後とは、今の子ども達が大人になって家庭を持つ時代です。昔は20年後のイメージを想像できていたのですが、今は、想像がつかない状態です。このコロナの状態が良い例だと思います。20年後は、どうなっているかわからないと言えます。今は、手元にスマホがあつて見ることができているだけ良いのかもしれませんが。仮想空間等を不登校の子どもが使っているのが、現在です。仮想空間のメタバースの中で、買い物をするのがあたり前の時代になっています。家に帰ってゲームをすることについても、ゲームをして操作することを楽しむのではなくて、自分のアバターを作って、仮想空間の中でコミュニケーションを楽しむ状態になっています。このような状態では、年をとった大人はついていくことができなくなります。また、eスポーツが市民権を得たりする等の時代になっております。スマホの依存症の問題についても、大人のスマホ依存症の問題だと思います。お父さんやお母さんが、上手にスマホをコントロールできているのであれば、多くの場合、子どももコントロールできていると思います。大人のスマホの問題には、暇つぶしができないというところがあると思います。これが2つ目の時間の使い方の問題だと思います。バスが来ることを待つ時に、惚けながら待っていた時代がありましたが、今は、少しでも時間があればスマホを見ている状態です。赤ちゃんに授乳する時もスマホをいじっていることがあります。つまり、大人が暇つぶしをできない状態になっています。物が豊かになって、家事も機械でしてくれる状態、家に帰る前から動いてくれて家に帰った時にはできている状態になっています。この空いた時間に、昔の場合は惚けて過ごしていたのですが、今は、スマホ等のメディアの世界に没頭します。大人がそのような世界に没頭しているため、その文化の中で、生まれた時からスマホがある状態ですから、そのスマホを触らない子どもの方が心配だと言えます。目の前に楽しみがある場合、意欲を持って参加するということ、交感神経が活発に働くということが子どもの育ちだと思います。退屈凌ぎ、暇な時間にどうするかということで、次々と刺激を求めようとするところが、ドーパミンの部分だと思います。刺激を求めることで、安心のある世界を求めているのだと思います。治療としては、今に集中しましょうということで、マインドフルネスがあります。呼吸法やヨガ、脱力、瞑想等を使うことで治療するのですが、これはスマホの世界と違う

ものだということがわかります。暇な時間をどのように惚けて過ごしていくかという視点に基づいたマインドフルネス等が、治療に取り入れられた時代です。そのあたりを考えてみることで、何が課題であるかがわかると思います。

3つ目は、愛着形成不全の問題です。愛着というものは、捉え方が幅が広い概念だと思います。私の中では、愛着は無意識レベルの信頼関係だと思っています。赤ちゃんとの信頼関係が重要です。赤ちゃんは、友だちとどのように付き合っていけば良いかわからないため人見知りをします。また、お母さんが大好きでトイレまでついていく等の後追いをします。しかし、今は、スマホのネットを使って、知らない人に誘われたらついていくケースも多くあります。人見知りや後追い等を行って、特定の人との信頼関係を築くことができていないのではないかと思います。愛着形成の問題は、赤ちゃんと、いかに信頼関係を築けるかが重要になってくると思います。生後9ヵ月から12ヵ月の時に、イナイナイバアで表情のコミュニケーションを学ぶのですが、それができないことで、視線が合わない等の問題が出てきます。大人と視線を合わせる経験がない状態で、スマホの画面とは視線が合う状態になっているのだと思います。首が座る前から、目と目で合わせる体験が重要です。抱っこした状態では、横目から見るために、斜視のような形で見ることになります。生後2ヵ月になった時から、しっかりと首を支えて真正面から目を合せることが大切になってきます。大人が話しかけて笑顔の模倣を促していくことが必要となります。真正面から見るという体験が無い状態で大きくなってきているので、スマホの時だけ前を向いて、人とは目を見てくれないという状態になるのだと思います。今は、リラクゼーションということで、自律神経の迷走神経の話が出てきております。迷走神経は、お腹側と背中側があり、背中側が心臓や肺や腸につながっています。言葉を獲得して、イナイナイバアができるようになると、お腹側の迷走神経が出来上がり、表情のキャッチボールや声、喉、声をかけて笑顔を返す等ができるようになります。これが3歳までに獲得できるようになれば良くて、それを確認するのが、3歳児健診だと思います。その時代のことが身についていないことがあり、これは障がいの有無等とは関係なく、大人になっても未学習・未習得の場合があるため、どのように対応していくかが課題になります。年齢相応に人見知り、後追い、イナイナイバアがある、信頼している人の顔を見るとほっとするという行動等を、どのように教えていくかが課題だと思います。何につまずいているかを把握して、生活の中に落として込んでいくことが必要だと思います。これまでは、環境の調整が重要視されてきたのですが、環境を整えたうえで、人との相互作用をどのようにしていくかが求められます。信頼できる人との関係が必要になりますが、これは、お父さんやお母さんが、おじいさんやおばあさんに、どのように育てられたかが重要になります。

お父さんやお母さんは、鍵っ子で育っているため、一人で過ごしてきた人が多くいます。そのため、子育てをする時、関わるのが急にできないのではないかと思います。これも文化の問題だと思います。経験がないために、お父さんやお母さんは変わることは難しいと思います。自律神経のレベルなので、子どもは無意識で反応しています。こういったことをアドバイスすると、お父さんやお母さんは理解して「やります」と言うのですが、理屈が分かっても身体が反応しません。人と人との関係の中で、もまれながら体験で覚えていないため、この経験をどのように積み重ねていくかが課題となります。「ぼつんと一軒家」のような番組が、一種のあこがれを持たれているあたりは、文化の影響もあると思います。流行っているゲームや番組、アニメ等を検証し、社会の中で何が足りないかを分析すると、その部分にアプローチをかけた心理療法が多いと思います。今は、「釣りで不登校を治す」等の本もでていますが、釣りで一匹も釣ることができない場合は、海を眺めて過ごしてみようという本もあり、これは瞑想の発想であり、共通するものがあると思います。文化の影響によって、今の子どもにとっては、スマホが当たり前の状態になっているのです。昔から求められている力を、身につける機会が無かったのではないかと考えております。この文化をどのように取り返すかが大切だと思います。時間の意識ということで、暇つぶしの仕方をどうするのかも考えていく必要があります。時間の意識については、3歳の子どもであれば、アナログ時計を見ることで、一日の量や、その時に行う活動を把握することができます。しかし、今は、デジタル表示になっています。そのため、時間が永遠に続く感じになります。目からの時間の全体像を把握するには、アナログで見る経験も必要なのではないかと思えます。小学校6年生の授業で、「物理的時間」「心理的時間」というものを学ぶのですが、楽しいことをしていると時間が短く、嫌なことは時間が長くかかるという、時間の概念を教えることとなります。この時間の概念を、赤ちゃんの時から育てていく必要があるのではないかと考えております。信頼できる大人と関係を作れるかどうかの部分で、お父さんとお母さん等の信頼できる大人と出会うかが大切だと思います。親が上手くいかないのであれば、幼稚園、保育園、学校の先生、部活の先輩、カウンセラー、医師等、無意識で信頼できる相手を巡りあい、信頼できる大人となってくれば良いと考えております。スマホの使用で、今の状態になったと理解するのではなく、マスクをして黙食をするようになったこと等の影響があり、人間関係やコミュニケーションの力を向上させていく課題があると考えております。子育て文化を、もう一度見直していく必要があると思います。園や学校には、大きな役割があり、求められているのではないかと思います。不登校も同様だと考えております。学校に行かなくても出席でき、勉強もできるので、出席を認めるということが全国

	<p>的に認められています。認められています、生身の人間同士の対面の付き合いの中で学ぶ事柄を、どこかで学ばなければならないと思っています。リモートで授業を受けることは良いのですが、外に出て生身の人間に出会う機会を設けることが必要だと思っています。</p>
アドバイザー	<p>ネット依存も不登校問題も共通点があると思います。人間が生きていれば、問題が出てくることは当たり前のことです。動画の中にあっただように、「依存が必要だった。その時の君には必要だった」という部分ですが、そう言ってくれる人がいることが大切です。私たち、大人社会が、目先のことに振り回されずに対応することが大切なのだと思います。信頼できる大人の話も、その部分に通じると思います。信頼できる大人がいなければ、子ども自身が安心して揺れることができないのだと思います。依存にしても不登校にしても、子どもが一生懸命に生きているからこそ出てきた課題なので、子どもが安心して揺れることができるように、大人が度量の広さを見せて、目先のことを解決しないといけないと思って完璧主義・完全主義に陥らないことが大切だと思います。不登校も同じだと思います。行きたくないと言っているのであれば、今は行ってはいけない状態なのかもしれません。行かないことに意味があるのかもしれません。児童の権利です。彼らは学校に行く権利はあるけれど、行く義務はありません。また、意見表明権はあり、大人に意見を伝えることができる、一緒に考えてくれる人がいるというところが大切であり、課題だと思いました。</p>
委員長	<p>様々な御意見をいただき、これからの課題等も見えてきたのではないかと思います。</p> <p>それでは、協議題「その他」に移らさせていただきます。なにか、この場でお知らせしておきたいこととかはございませんか、御質問や御意見、付け足し等はありませんか。事務局から連絡事項ございますか。なければ、最後に発達支援課長から挨拶があります。</p>
事務局	<p>——課長あいさつ——</p>
委員長	<p>次回の協議会は令和5年2月6日（月）の開催予定でございますのでよろしくお願いいたします。それでは、本日の協議会を終了させていただきます。皆さまの御協力により、円滑な議事進行ができましたことに重ねてお礼を申し上げます。協議会を終わりにしたいと思います。</p>